

坊っちゃん展

梅佳代 浅田政志 三沢厚彦

祖父江 慎

会期：2018年6月30日(土)～9月2日(日)

主催：「坊っちゃん展」実行委員会(愛媛県、テレビ愛媛)

会場：愛媛県美術館

梅佳代 浅田政志 三沢厚彦

明治 50年

明治 50年

2018年 6月30日(土) - 9月2日(日)

休館日：月曜日
 開館時間 9:40-18:00(入場は17:30まで)

愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内 Tel.089-932-0010 <http://www.ehime-art.jp/>
 お問い合わせ：「坊っちゃん展」実行委員会事務局(テレビ愛媛事業部内)
 Tel.089-933-0322 (9:30~17:00 土日・祝日除く)

道後オ「セナ」ト 2018 道後温泉(松山市)で開催中!! ~2019年2月28日

祖父江 慎
梅佳代
坊っちゃん
浅田政志
三沢厚彦
展

【開催概要】

展覧会名：坊っちゃん展 —祖父江慎・梅佳代・浅田政志・三沢厚彦—

会期：2018年6月30日(土)～9月2日(日)

休館日：月曜日 ※ただし、7/2(月)、7/16(月・祝)、8/6(月)は開館し、翌日火曜休館

会場：愛媛県美術館

主催：「坊っちゃん展」実行委員会(愛媛県、テレビ愛媛)

共催：愛媛新聞社

アートディレクション：祖父江慎

特別協力：道後オンセナート実行委員会

協力：岩波書店、コズフィッシュ、西村画廊、pdash

特別協賛：大一ガス株式会社、株式会社ミズカミ

協賛：株式会社愛媛銀行、株式会社写真弘社、株式会社トータルアートサービス HIGUCHI

企画協力：内田真由美

後援：松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、(公財)愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県PTA連合会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、伊予鉄グループ、学校法人河原学園、学校法人松山ビジネスカレッジ、(公財)松山観光コンベンション協会、道後温泉旅館協同組合、道後商店街振興組合、NHK 松山放送局、南海放送、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛 CATV、FM 愛媛、えひめリビング新聞社

観覧料：一般 1,200 円(1,000 円) 高大生 900 円(700 円) 小中生 500 円(300 円)
※カッコ内は前売り料金

一般からの問い合わせ先：「坊っちゃん展」実行委員会事務局(テレビ愛媛事業部内)
Tel.089-932-0322(9:30～17:00 土日・祝日を除く)



三沢厚彦
《Cat 2013-03》2013年
樟、油彩
Photo: Kei Okano

坊っちゃん展

祖父江慎
梅佳代
浅田政志
三沢厚彦

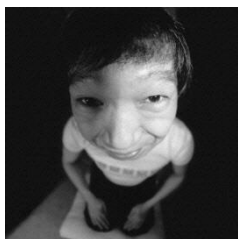
【開催趣旨】

愛媛県松山市の道後温泉を中心に展開するアート・イベント「道後オンセナート 2018」の参加作家の内、祖父江慎、梅佳代、浅田政志、三沢厚彦の4名が、夏目漱石の小説『坊っちゃん』を軸にその魅力を存分に発揮します。

漱石の原稿書き間違いも敢えてそのまま活かした無修正版『心』（岩波書店）を発表した祖父江慎は、自身の「坊っちゃん」本もお披露目するほか独自の視点で作品世界を演出し、本展全体のアートディレクションも務めます。写真家の梅佳代は、道後中学校の野球部男子生徒を「坊っちゃんたち」として得意の親密感のある表現で生き活きととらえ、同じく写真家の浅田政志は、ユーモアを交えた視点で『坊っちゃん』に登場する名シーンやアイテムを撮り下ろします。また「アニマルズ」シリーズで人気を博す彫刻家の三沢厚彦による猫は、漱石も愛し、その作中にも登場する「猫」や漱石をモチーフにした新作を手がけます。漱石・子規関連資料や、その他『坊っちゃん』にまつわる多岐にわたる資料も合わせ、これまでにない「坊っちゃんワールド」をお楽しみください。

【作家プロフィール】

祖父江慎 Shin Sobue



アートディレクター、ブックデザイナー。コズフィッシュ代表。1959年、愛知県生まれ。たぐいまれな「うっとり力」をもつてのブックデザインを軸に映画、音楽、展覧会の告知空間デザインやグッズデザインを展開。スヌーピーミュージアム東京のアートディレクションや地中美術館、豊島美術館のロゴ制作など幅広く活躍中。著書に漱石『心』（岩波書店）をはじめ、過去のブックデザインをまとめた『祖父江慎＋コズフィッシュ』（パイインターナショナル）などがある。

梅佳代 Kayo Ume



写真家。1981年、石川県生まれ。「男子」「女子中学生」シリーズで、キヤノン写真新世紀連続受賞。2006年、初写真集『うめめ』（リトルモア）で木村伊兵衛写真賞受賞。13年、東京オペラシティアートギャラリーで個展『梅佳代展 UMEKAYO』を開催。近著に『白い犬』（新潮社）、『ナスカイ』（亜紀書房）。日常の中に潜んでいる様々な光景を独自の観察眼で捉えた作品が高く評価され、国内外の媒体や展覧会で作品を発表している。

浅田政志 Masashi Asada



写真家。1979年、三重県生まれ。自らも被写体となった家族写真集『浅田家』（赤々舎刊）で第34回木村伊兵衛写真賞を受賞。日本各地の市井の人々を撮影するプロジェクトにて精力的に活動をしている。主な展示は、『Tsu Family Land 浅田政志写真展』（2010年：三重県立美術館／個展）、『LOVE 展』（2013年：森美術館）、『ほぼ家族。』（2016年：入江泰吉記念 奈良市写真美術館／個展）。

三沢厚彦 Atsuhiko Misawa



彫刻家。1961年、京都府生まれ。1989年、東京藝大大学院修士課程修了。2000年、動物の姿を等身大で彫った木彫「Animals」を制作開始。同年より西村画廊（東京）で個展開催。2001年、第20回平櫛田中賞受賞。2007-08年、平塚市美術館など全国5館で巡回展開催。以後、各地の美術館で個展を多数開催。近著に作品集『ANIMALS No.3』（求龍堂）、『動物の絵』（青幻舎）、『アニマルハウス 謎の館』（求龍堂）。神奈川県在住。



【本展の見どころ】

○ 道後オンセナート 2018 とのコラボレーション

愛媛県における一大観光スポット、道後温泉を中心に多様なアーティストが作品を発表する「道後オンセナート」と同時開催。道後と路面電車で繋がる城山公園内の県美術館で開催する本展と、街全体で盛り上げます。

○ 祖父江慎によるアートディレクション

祖父江のライフワークのひとつである漱石の『坊っちゃん』。印刷物のデザインはもちろんのこと、本展の構想、展示作品の選定、展示空間のデザインやレイアウトなどを祖父江慎本人が手がけます。こだわりの書体を駆使し、明治時代の写真などをレイアウトした『坊っちゃん』が丸ごと入った「坊っちゃん新聞」も発行予定。

○ 「坊っちゃん」尽くし

漱石が小説を発表してから現在に至るまで、110年以上にわたり出版された関連書籍から撮り下ろしの写真、昭和初期のコレクターによる収集物、物語の題材となった明治時代の松山の各所関連資料など『坊っちゃん』を切り口に一挙ご紹介。

【展示構成案】

○ コーナーA

梅佳代、浅田政志、祖父江慎によるそれぞれの「坊っちゃん」の世界。

梅佳代が道後中学校野球部生徒たちを生き活きと表現した「坊っちゃんたち」。そして浅田政志が撮り下ろした『坊っちゃん』ゆかりの情景は、祖父江慎による小説本文からの引用と、また物語に登場する伊予鉄道、道後温泉や愛媛県尋常中学校(現・松山東高校)などの当時の資料と合わせて展示します。

また、祖父江慎による「坊っちゃん」空間では、膨大な「坊っちゃん本」コレクションを始め、文字のスペシャリストである祖父江ならではのマニアックな視点による『坊っちゃん』の新たな魅力を紹介します。

○ コーナーB

夏目漱石と正岡子規との深い絆から生まれた『坊っちゃん』の背景を、実際の二人の交流を示す書簡や絵画などの資料により紹介します。

○ マスコット役としての猫たち

『坊っちゃん』が発表された『ホトギス』第9巻第7号には、漱石のデビュー作となる『我輩ハ猫デアル』が連載されていました。三沢厚彦が小説の主人公の猫や漱石をモチーフに新作を手がける他、漱石自身も愛した「猫」が本展のマスコット役を担います。

提供画像一覧

※希望される方は下記愛媛県美術館担当またはHPお問い合わせにてご連絡ください。

<p>①</p>	<p>メインビジュアル(ポスター)</p> <p>※画像1点のみの場合は基本的にこちらをご使用ください。</p>	<p>①</p> 
<p>②</p>	<p>祖父江 慎 「坊っちゃん本棚」 Shin Sobue 2018 Photo: Tadashi Nakamura</p>	<p>②</p>  <p>③</p> 
<p>③</p>	<p>祖父江 慎 漱石『心』 (岩波書店、2014年)</p>	
<p>④</p> <p>⑤</p>	<p>梅 佳代 「坊っちゃんたち」 2017年 © Kayo Ume</p>	<p>④</p>  <p>⑤</p> 
<p>⑥</p> <p>⑦</p>	<p>浅田政志 「坊っちゃんアイ 2018」より 2018年 © Masashi Asada</p>	<p>⑥</p>  <p>⑦</p> 
<p>⑧</p>	<p>三沢厚彦 《Cat 2013-03》 2013年 樟、油彩 Photo: Kei Okano</p>	<p>⑧</p>  <p>⑨</p> 
<p>⑨</p>	<p>三沢厚彦 《Cat 2014-02》 2014年 樟、油彩 Photo: Ken Kato</p>	<p>© Atsuhiko Misawa, Courtesy of Nishimura Gallery</p>

ご連絡先

愛媛県美術館学芸課 石崎・杉山

TEL. 089-932-0010 FAX. 089-932-0511

美術館 HP : <http://www.ehime-art.jp/media/index.html>